

現在位置: [asahi.com](http://asahi.com) > [マイタウン](#) > [大阪](#) > 記事

## 首都直下地震対策に議論 東京で関大シンポ

2011年10月29日



首都直下地震について討論する研究者ら＝東京都内

関西大学社会安全学部などが主催するシンポジウム「首都圏地震のワーストシナリオをどう描くか」が28日、東京・虎ノ門であった。企業や行政の防災担当者ら約500人が参加し、首都圏で発生が懸念される直下型地震の対策に、東日本大震災の教訓をどう生かすかをテーマに議論した。

国の想定では、東京湾北部でマグニチュード(M)7.3の直下地震が発生すると、最悪で死者約1万1千人、建物の全壊や焼失計約85万棟と見込まれている。

政府の東日本大震災復興構想会議の委員も務める河田恵昭(よしあき)・関西大教授は、討論の中でこの想定を疑問視し、「地震が起きたらまず想定と何が違うのかを見極め、命を守る具体策を練るべきだ」と指摘。3月の大震災では国は当初、想定されたM7級の宮城県沖地震だと思い込み、津波高を過小評価したことが被害の拡大を招いたと報告した。

行政や企業の中核機能が集中する首都圏では、行政が機能しなくなることを想定し、住民や企業が自立して火災の初期消火や救出活動に当たることが大切だ、との指摘もあった。業界単位での地震対策を求める意見も出た。